

[国際標準になった認定情報技術者 (CITP)]



4 CITP による地域復興アイデアソン —社会価値創造への挑戦—

赤坂 亮 | 日本アイ・ビー・エム (株)

土屋俊樹 | (株) ハイマックス

社会価値創造への挑戦

企業の枠を越えて新たな価値を創造するために、CITP コミュニティ内に社会価値創造分科会を設け、企業数 10 社・参加者 15 名にて 2016 年 4 月より活動を開始している。

本分科会では、実践可能なプラクティスを調査・研究し、成果を共有・実践することを目標としている。個人認証、企業認定、ユーザ、ベンダ企業を問わず、CITP から広く参加者を募って活動をしている。

社会価値創造分科会では、単なる提言にとどまらず、CITP 自らが実践的に問題解決に取り組むために新たなプロジェクトの企画・実践に挑戦している。社会価値の創造として防災、震災復興、障害者支援やビジネス効率の向上など、複数のテーマを設定して活動を行っているが、昨年 (2017 年) は地域復興のためのアイデアソンを企画した。

アイデアソンの場所は宮城県石巻市とした。東日本大震災からすでに 7 年が経過しているが、現地では被災者のメンタルヘルスの問題、孤独死、不登校出現率の増加など目に見えない問題が悪化している。アイデアソンの実行に際しては、デザイン思考の考え方を参考とした。

シリコンバレー発祥のデザイン思考では革新的なイノベーションは共感から始まるとされる (図-1 参照)。

CITP が実際に現地を訪れ、被災地が現在どうなっているか、現地はどのように考えているか、どのような問題があるのかを共感し、理解することを重要視してプロジェクトを開始した。

共感を求めて／石巻視察

2017 年 3 月、CITP 関係者有志数名により宮城県石巻市を訪れた。有名な日和山公園や震災遺構、各地の復興まちづくり情報交流館等を巡り、石巻専修大学の山崎ゼミでは震災復興ワークショップに参加した。震災から 6 年余りが経過していたが、まだ復興途上であることを強く意識した。

現地 NPO の方の話では、IT による復興支援の話はよくあるが、結局本社のある東京の会社が儲か

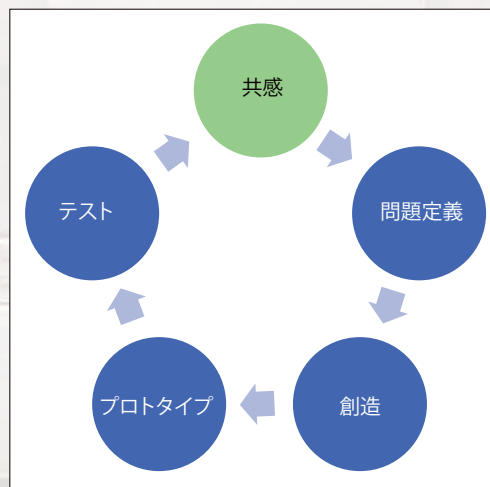


図-1 デザイン思考のサイクル

る仕組みであったり、継続しない1回だけの取り組みであったりして現地のためになっていないとおっしゃっていた。また山崎ゼミのワークショップを通じて、直接的な支援も大事だが関心を持ち続けることがより大切である、ということを学んだ。

現地に赴くことによって、「ITによる復興支援」というカッコイイ耳触りの良い取り組みではなく、まずは大仰に構えずに小さなことでもよいので持続して取り組むことが大切である、という気付きを得た（図-2参照）。

プロジェクト始動

ある新聞記事に地域活性化に向けてシビックテックの取り組みが掲載されていた。シビックテックとは、「市民（シビック）によるIT（テック）を使った地域の課題解決や生活の利便性向上への取り組み」である。この取り組み自体が面白いと感じた我々は社会価値創造分科会メンバを中心にシビックテック専門部会（シビックテックSIG）を立ち上げ検討を開始した。

検討の結果、石巻専修大学にて大学生を相手に地域のオープンデータを活用した地域復興アイデアソンの実施を企画した。社会価値創造分科会の目的に照らすと、学生にとってはアイデアソンを通じて改めて地域社会の課題を見つめ直すきっかけとなり、また、現役のIT技術者（社会人）とのグループワー



図-2 情報館にて現地NPOの方との会話

クを通じて、ものの考え方や視野を広げるきっかけになると考えた。そしてアイデアソンから創出されたアイデアがユニークなものであれば実際の地域貢献サービスを創出できる可能性もあり得ると考えた。CITPにとっては、被災地での社会貢献はもちろん、現地でのフィールドワーク的な取り組みを通じて、CITP自身の活動の場を拡げることに繋がるのではないかと考えた。

模索／協力者からの支援

SIGにて検討を開始したが、このような取り組みに長けたメンバがおらず手探り状態で進めた。SIGメンバ全員、多忙な本業に追われる中、メール等でコミュニケーションしながら少しずつ実施内容を固めていった。

■大学への協力依頼

まずは石巻専修大学理工学部の亀山充隆教授にCITPによる取り組みと今回のアイデアソンの趣旨を説明し、協力していただけないか相談した。快くご賛同いただき実施会場の貸与と学生の募集に協力していただけることになった。

■オープンデータの活用

オープンデータ活用を推進している石巻市ICT推進室に助言を請うべく相談した。こちらでも賛同していただき、石巻専修大学経営学部の益満環教授がオープンデータの知見があるとの助言をいただいた。同教授にも趣旨を説明し学生の募集に協力していただいた。

■アイデア出しのフレームワーク

実際のアイデアソンをどのように進めたらよいか考えあぐねていたところ、情報処理学会の旭寛治氏より慶應大学SDM研究生の江幡彩氏をご紹介いただいた。同氏はデータの組合せパターンからアイデアを創出するフレームワークの研究をされてい

る。SIG メンバが日吉キャンパスにて取り組みを説明し、実施結果をフィードバックすることを前提に、そのフレームワークの使用許諾をいただいた。

■顧客価値連鎖分析

以上の結果をデザイン思考の顧客価値連鎖分析 (Customer Value Chain Analysis) を用いて図式化すると、今回かかわった各ステークホルダとのやりとりにおいて価値の交換（「連鎖」ではなく「交換」ではあるが）が成立している。誰かの一方的な価値提供ではないこと、つまりはお互いに価値を交換している持続可能な利害関係が成り立っている、ということが分かる（図-3 参照）。

実行／アイデアソン実施

■アイデアソン実施

2017年10月27日、石巻専修大学石巻キャンパス内教室にてCITPシンポジウム兼シビックテック「地域復興アイデアソン」を実施した。当日は、全国からCITP11名、オブザーバ3名、大学生17名が参加した。また石巻ICT推進室から1名、地元

の石巻日日新聞の記者の方も取材に来られた。
CITPによる講演のあと、チームに分かれてアイデアソンを実施した。石巻市オープンデータを元に江幡氏提供フレームワークを用いて新しい地域貢献サービスのアイデア出しを行う。そしてCITP2名と大学生3～4名でチームを作り、チーム内でのディスカッションを経て、そのアイデアを最後に発表する、という進行である。

はじめは緊張気味であった学生たちも議論が進むにつれ徐々に緊張もほぐれ積極的に会話で

きるようになった。そしてCITP自身も普段あまりふれあう機会のない若い学生たちに交じって議論することで、今までにない笑顔が見られた。実はこれが最大の収穫かもしれない（図-4、図-5）

最後に各チームから、創出したアイデアについて発表があった。発表内容は下記の通りである。

- ・ A チーム：「石巻ステキ！サイクル」（観光業による地域振興）
- ・ B チーム：「石巻どうですか？」（観光案内）
- ・ C チーム：「学生生活サポートシステム」（大学までのバス運行状況を見る）
- ・ D チーム：「若い血が欲しい」（献血促進）

時間が足りないにもかかわらず、全チーム発表までたどり着けた（図-6）。

■評価

実際にアイデアソンを見学していただいた亀山教授より「大変有意義な取り組みである。ぜひ継続してほしい」とのコメントをいただいた。また参加した大学生全員にアンケートを実施した結果、参加者のほぼ9割が有用との回答を得た。

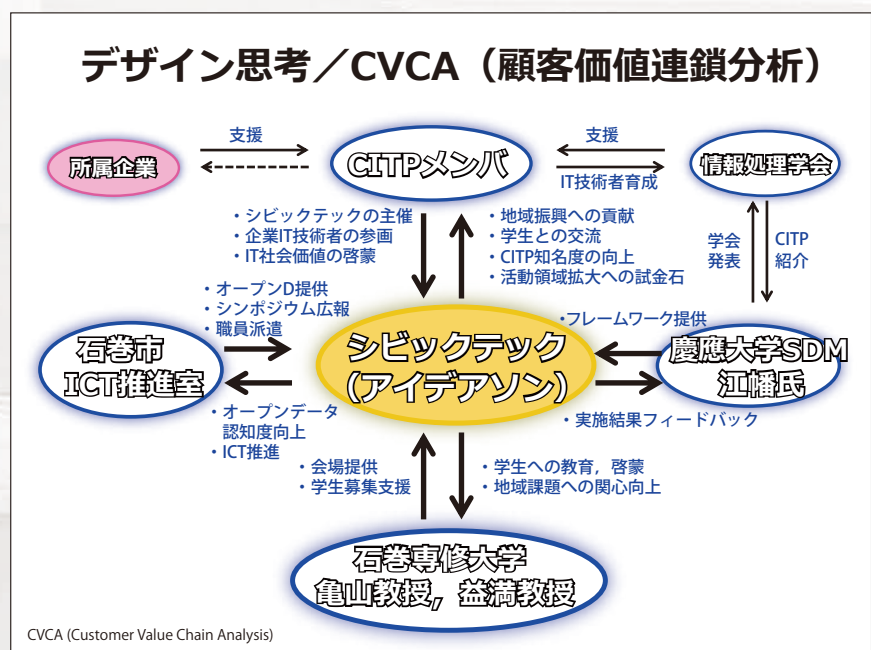


図-3 アイデアソンにおける CVCS

主な意見としては下記の通りであった。

- 地域住民の観点ならではの課題を浮き出すことができる、良い機会だと思った。
- 技術、知識があっても活用（活かし方）を考える作業について市民のアイデアを聞くというのは面白いと思った。
- CITPにせよ AIにせよ、まだまだ知らない未知の領域を非常に多く見ることができたので、今後の進路を考える際に参考にしたい。
- これからの就職に対して職業研究や目標を考える上で非常に役に立つ話だったと思います。
- 多くの人とかかわることが楽しく有意義だった。また行うときは参加したいと思う。

展望／今後の活動に向けて

SIG メンバが本業で多忙を極める中、十分な準備のもとに実施したというよりは、準備不足でもまず

はとにかく実践してみた、というかたちになってしまった。しかしCITP自身がそのコミュニティを通じて自ら企画・実行し、結果的にそれなりの手ごたえを掴んだことは収穫であった。デザイン思考的に考えるならば、稚拙でもまずは実行してみることに、そして取り組みのハードルを下げ、CITP自身が継続してかわれるサイクルを作ることが重要だといえる。そのように考えると、うまく実施できるようになるのはもう少し先でよいのかもしれない。

今年度も石巻でのアイデアソンに向けて準備が始まっている。今回の実施内容を振り返り、よりブラッシュアップして臨みたい。

またこの取り組み自体はICT教育の普及という観点でも有意義と考える。よりブラッシュアップできた段階で他大学への横展開も考えていきたい。

※各団体、個人名は敬称略とさせていただきます。

参考文献

- 1) CITP アニュアルレポート 2018 年度版,
<https://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2018/download/citp/Session2.pdf>

(2018年7月9日受付)



図-4 アイデアソン会場の雰囲気



図-5 笑顔の参加メンバ



図-6 チーム発表の様子

赤坂 亮 (正会員) akasakar@jp.ibm.com

日本 IBM でヘルスケア・ライフサイエンス事業を中心に医療ビッグデータ分析による価値共創や、サービス学における戦略立案支援技術の開発に取り組んでいる。

土屋俊樹 t-tsuchiya@himacs.co.jp

(株)ハイマックスにて産業・流通系のシステム開発に、主にプロマネとして従事。また、顧客情報システム部向け IT 関連講座の企画、および講師を担当。